



〒111-8765 東京都台東区西浅草 3-17-1 浅草ビューホテル 2階  
TEL. 03-3847-1111 FAX. 03-3847-0154 URL : http://www.asachu-rc.jp

## 2015 - 2016 年度テーマ

R.I. テーマ 「世界へのプレゼントになろう」

R.I. 会長 K.R. "ラビ"ラビンドラン

地区ガバナー 鈴木 喬

クラブテーマ 「" 初心にかえろう " " ありがとう " " おかげさま " の心で」

クラブ会長 山尾 尚 司



## 本日の卓話

「日本ロータリークラブ創立者・米山梅吉伝」

講演師 五代目 一龍斎貞花 様

2016 年 6 月 15 日

第 1454 回例会

会長 山尾 尚 司

幹事 斎藤 彰 悟

## 今後の卓話予定

6/22	クラブ協議会	本年度事業報告
6/28	最終例会「この1年を振り返って」	山尾会長・斎藤幹事

## 前回 (6/8 1453 回例会) の記録

### 来 訪 者 紹 介

◆ゲスト	3名	今戸焼 白井 六代目 白井裕一郎 様 白井様令夫人 理穂子 様
◆ビジター	4名	ローターアクト会長 小笠原 聡 様 次年度ガバナー補佐 東京小石川R.C. 野生司義光 様 次年度分区幹事 東京小石川R.C. 石川 譲 史 様 東京浅草R.C. 太田 晴 範 様 東京北R.C. 安 積 武 史 様

### 出 席 報 告

総会員数	休 会	出席免除	出 席	欠 席	出席率	修 正 出 席 率
43 名	1 名	4 名	36 名	4 名	90.00%	1451 回例会修正 欠席 1 名・出席率 97.44%

## 会長報告<山尾会長>

・関東も梅雨に入りましたが、梅雨のイメージは暗く、ジメジメした憂鬱な時候と思いがちですが、自然界では春から初夏にかけての恵みの雨となります。

ただ、最近豪雨とか土砂崩れ等、極端な天候になりがちで、情緒も風情も無くなってきた感があります。

今の世情と同じでしょうか。どうもギスギスしていきません。ここらで、この時節に因んだ粋な小唄の文句をご披露します。

“梅雨もよい 傘持つほどはなかりしに  
いつ降りそめし五月雨や軒の玉水音冴えて  
雨も乙だよ葉山の繁り オヤ時鳥 初音聞  
かせてなまめかし”

もう一つ

“釣りのしるぶ ゆれて音もよき風鈴の ま  
ねぐ尾花に露玉の 主を まつ虫萩桔梗  
色も小粋な江戸縮み”

穏やかな恵みの雨となるよう祈ってやみません。

## 幹事報告<齋藤幹事>

- ・ 6月22日(水)の例会は、クラブ協議会・本年度事業報告会です。委員長の皆様、報告書を6月17日(金)までに、幹事あてにメール又はFAXにて提出をお願いします。

- ・ ロータリー財団・米山記念奨学会へ皆様より寄せられた寄附金を送金致しました。なお、両財団とも「公益財団法人」の認定を受けており、2017年の確定申告時に税額控除を受けることができます。

## 委員会報告

### <親睦活動委員会 原田委員>

- ・ 新旧会長幹事歓送迎会会費集めます。

### <バギオ基金 潮田評議員>

- ・ 5月16日、バギオ基金評議員会が麴町の弘済会館で開催されました。受入寄付金状況や広報活動・留学生の現状について等報告がありました。

### <ゴルフ同好会>

- ・ 本日アサカテラーさんが、採寸の為来ています。まだ済んでない方、申込みをしていないが作りたい方は、例会後も仮縫いを行っています。又本日都合の悪い方は、来週も採寸を行います。

## ニコニコボックス

### <北分区ガバナー補佐 野生司義光様、北分区幹事 石川譲史様>

- ・ 次年度のご挨拶に伺いました。来年1年間宜しくお願い致します。

### <山尾会長、齋藤幹事>

- ・ 白井裕一郎様、「今戸焼」の卓話、楽しみにしています。

### <植木>

- ・ 本日、卓話を依頼いたしました白井裕一郎さんをご紹介させていただきます。

### <宮崎、宮村、原田、古谷>

- ・ 本日の卓話「今戸焼」今戸焼白井 六代目白井裕一郎様、本日の卓話、宜しくお願致します。

### <宮村、後上、吉沼、藤掛、上原、加藤、山尾、大塚、松本>

- ・ いよいよ鳥越神社例大祭、お楽しみ下さい。

### <吉沼>

- ・ いよいよ鳥越祭です。吉沼硝子1階宴会場、例年通りオープンしております。皆様是非起こし下さい。

### <大塚>

- ・ 蔵前神社、例大祭も無事終わりました。関

係者の皆様有難うございました。お世話になりました。

### <安積武史様>

- ・ 今週・来週、二週に渡り、ゴルフ会ブレザー採寸の為、お邪魔します。太田様に大変お世話になり有難うございます。

### <太田>

- ・ 東北復興支援 継続を!

### <太田>

- ・ 安積さん、本日はありがとうございます。ジャケットの仕上がりを楽しみにしております。

### <浜中、後上、高木>

- ・ ゴルフ同好会オープン戦。太田幹事、お世話になりました。

### <小林(雅)、矢野>

- ・ 100%出席の表彰をして戴きまして、誠に有難うございました。

### <天笠>

- ・ 今週の6/11(土)・6/12(日)、恒例のファミリーセールを行います。是非お出掛け下さい。

## 「今 戸 焼」



今戸焼 白井 六代目

白 井 裕一郎 様

## 1. 「今戸焼」のはじまりについて

鎌倉幕府の事跡を記す「吾妻鏡」養和元年（1181）7月3日条に、源頼朝が鶴岡八幡宮の造営にあたり浅草寺の大工を呼び寄せている記述があり、浅草寺周辺に寺に関わる様々な職人集団が居たことが分かる。そして隅田川兩岸に「瓦町」とつく地名が数カ所ある事が、浅草寺と瓦作りとの結びつきを示唆している。「明暦の大火（明暦3年/1657）」で多くの被害が出た江戸市中から今戸に焼き物の生産業者が集まり始め、その後防火対策の一環で施行された「瓦葺奨励策（享保5年/1720）」が、今戸で焼く瓦＝「今戸焼」が産業としての経済的基盤を確立する更なる契機となった。同時期に文芸や浮世絵の題材として瓦を焼く風景が盛んに用いられるようになった事で「今戸焼」という名が江戸市民に認知され始め、隅田川の代表的な風景の一つとして「今戸焼」が江戸時代の人々に知られていった。いわゆる「今戸焼」のブランド化である。そして瓦の需要が増大し隅田川周辺だけでは生産が追いつかず、瓦作りに向けた土があり水運など交通の便が良い綾瀬川・中川・江戸川流域にも生産地が拡大していった。

## 2. 「葛飾今戸焼」と「今戸の今戸焼」

## 【葛飾今戸焼】

葛飾周辺は古くからその地を活かして瓦、素焼きの日常雑器、煉瓦等の焼き物の生産地で、窯業は地域性を示す特徴的な産業であり

伝統的な産業としても存在していた。大正12年の関東大震災を契機に隅田川沿岸の今戸焼は衰退、窯場も葛飾周辺の郊外へ拡散。昭和40年代末は園芸ブームで素焼きの植木鉢生産が最盛期を迎えた。しかし昭和50年代に入ると生活環境の変化により、焙烙や植木鉢を作った窯も殆どが廃業。平成13年には葛飾区で製陶業を営むのは2軒となった。

(スライド参照)

- ・昭和34年頃 葛飾周辺の製陶業者の集まり
- ・「関東温室鉢生産組合」の分布
- ・染谷峰夫氏の達磨窯、瓦焼成と窯出し、道具類等
- ・橋本正司氏の窯と焙烙の乾燥作業の様子
- ・内山英良氏の達磨窯、植木鉢の干場・作業場、ラン栽培用の鉢、煉瓦製の窯、煎餅の焼き釜
- ・「神田淡平」さんの工場で今戸焼釜を使用されている様子

## 【今戸の今戸焼】

尾張屋六代目金沢春吉氏（1868～1944）は今戸人形の職人で江戸時代には主に子供の玩具を作っていた。明治・大正にかけて人形は売れずやめていたが、関東大震災後か昭和の初めに人形の型を掘り出した作り始める。明治になりブリキはセルロイドの玩具が登場、顔料が体に悪い等といわれて廃業した。台東区浅草橋の老舗、(株)吉徳の社屋の地中より金沢氏の袴雛が発掘され、その地中の土で金沢氏の袴雛が復元された。

### 3. 「今戸焼 白井」の仕事

- ・白井和夫氏の初代は白井善次郎（1688～1704 創業）で戦前は今戸で茶道具、楽焼は白井家3軒（善次郎・半七・孝一）で製作。戦後、台東区今戸から葛飾区宝町に移り植木鉢を製作。白井半七は白井和夫氏の8代前の分家と言われている。
- ・初代 白井清次郎（1825～1898）は白井善次郎家から分家した当家の初代。23歳（1847）の時に開業。維新前は主に茶器、維新後は日用品を製造するようになる。明治10年（1877）の内国勸業博覧会に製品を出品し花紋賞碑を受ける。
- ・二代 白井幸太郎（1850～1920）は父清次郎と共に日常生活雑器を主力とし、工芸品（茶道具類）も製作。幸太郎の系統に属する市川政志は昭和初期に寺島で創業し、分福茶釜・笠冠り狸・黒猫・夷大黒等を製作したという。
- ・三代 白井鉄太郎（1887～1946）は関東大震災と終戦で今戸焼の需要変動が厳しい中、鉄太郎の家族全員で今戸焼の家業を守り、長男孝一が引き継いだ。昭和15年今戸神社玉垣奉納者「今戸白井製陶所白井鉄太郎」とある。
- ・四代 白井孝一（1910～1993）14歳頃から家業に従事し、関東大震災後に今戸人形復活に取り組む。仕事を覚えた頃でも人形よりは雑器類（土鍋・七輪・火鉢・焙烙など）を主に製作。雑器と共に作り出した人形は、観音様の境内で戸板に並べて売っていた。豚の蚊やりは主に震災後から。皿やどんぶりなどの食器類は仕事を覚えてからは作らず、千葉や品川、木更津まで製品を売りに行った。
- ・五代 白井靖二郎（1941～2007）14歳頃から家業に従事して、父孝一から技能を伝承。日常生活雑器、人形は寺社の縁起物を製作。彩色は母トヨ、妻美智子が担当した。父の代から宮内庁の御門鑑を賜り、鴨場のコンロ等を製作。工業製品の冶金用「るつぽ」や電解メッキ用素焼き円筒、歌舞伎の「きえもの」や「かわらけ」なども父の代

から受け継ぎ製作していた。

- ・六代 白井裕一郎（1971～）幼少の頃より祖父孝一、祖母トヨ、父靖二郎、母美智子の手仕事を見ていたが、家族総出で牛島神社の丑づくりを行った頃から本格的に干支人形の意匠にも関わり始める。20代から家業に従事し、祖父孝一、父靖二郎から技能を伝承。台東区指定生活文化財保持者。平成24年（2012）白井家で保存していた江戸時代の人形型が台東区有形民俗文化財に登録されている。現在は母美智子、妻理穂子と共に人形や寺社の縁起物約80種類を、毎年新作で干支人形の製作も行う。また江戸時代の人形型から昔の今戸人形の復元も行っている。

（スライド参照）

- ・今戸焼土人形が出来るまでの作業工程
- ・隅田公園内、東京都掲示板の丸メ猫（スカイツリーを背景に）
- ・丸メの猫と浄瑠璃町繁花の図（歌川広重／嘉永5年）
- ・白井家所蔵の江戸時代の型（台東区有形民俗文化財）
- ・寺社に納めている授与品達
- ・今戸焼土人形の絵葉書とシール達

#### 【最後に】

このお話しを頂いた後すぐに葛飾今戸焼と縁のある神田淡平の鈴木さんと知り合い、葛飾区郷土と天文の博物館の谷口さんを紹介して頂き、関東平野の古代の焼物や葛飾今戸焼の歴史、文明開化の頃の煉瓦産業についても知ることができ、大変感謝しております。「今戸焼」は時代と共に江戸・東京市民の求める需要に応じて様々なものを作り続けてきました。江戸時代は瓦が沢山作られ、明治時代は煉瓦、私のもの心がついた頃は父が工業製品も沢山作っていました。どれも時代の流れと共に今では作られていません。そして大量生産大量消費のこの流れは、今も昔も変わりません。でも江戸時代にはこの流れから一歩も二歩も引いて、ふと、このせわしさを眺める余裕があったような気がします。そんな心の余裕を大切にしていきたいです。